

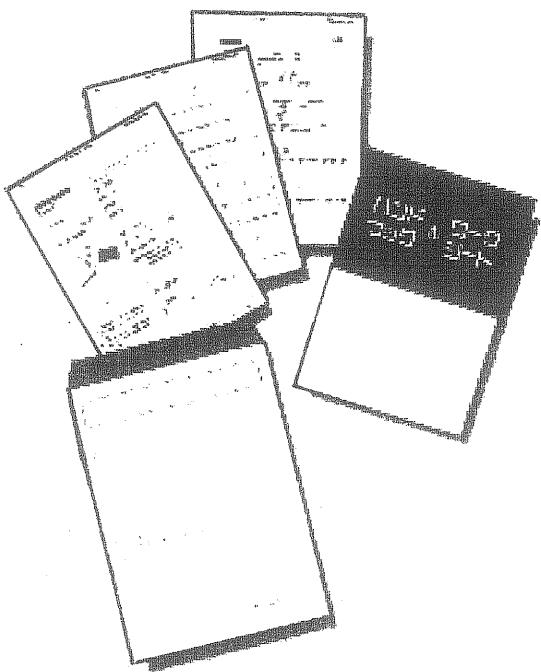
TAKAYAMAJUKU

TeamA-1

Tool Name

コロンバスのたまご

～ワークシート説明書～



もくじ

ページ

使う前に

- はじめに ······ 2
- 特徴 ······ 3
- 考え方 ······ 3

使いかた

- ワークシートについての説明 ··· 4
- 取り組みの流れ ······ 5
- 多角的なアプローチ例 ······ 6
 - I、行動やしぐさから把握してみる ··· 6
 - II、何故という視点を持つ ······ 7
 - プログラム例 ······ 11
 - II、支援者の意識を変えてみる ····· 12

添付書類

- シートは個人情報が含まれますので
大切に管理をお願いいたします。

- ① 手順表&シート説明書
- ② ワークシート1（モニタリング用）
- ③ ワークシート2（グループワーク用）
- ④ ワークシート3（評価表）

はじめに：

利用者さんの楽しみや好きな事を見つけ、その訴えや要求・要望に沿ったサービスの提供を実現させる為に、援助者である皆さんは日々努力されている事と思います。

しかし、自らしたい事や楽しみを他者に伝えることが難しい利用者の方々もいらっしゃいます。

そこで、その様な方達の楽しみを見つける上で私たちは利用者さんの行っている毎日の行動や仕草から読み取っていく事はできないかと考えました。A1グループは多方面からの視点で、楽しみを見つける表を作成したいと考え今回のテーマとしました。

この作成目的は、上記以外に利用者をイメージできるようにと感じます。

A1 グループ

6施設6名

特徴

このツールは発語の難しい利用者さんの心で訴えている
「ねえ！もっと遊んでよ、解ってよ」という視点から作られました。
声には出して言えないが、サインを出している人は多いと思います。
そのサインをくみ取り、その人にいかに日々の暮らしに潤いをだせるか、楽しみを見つけられるかを追求してきたいと考えました。
普段とは違う視点から利用者さんを把握することで楽しみを見つけられたり、合った環境を作ったり、よりよい支援につなげられることを目的としています。

ここでは援助者が視点を変えられ、違うアプローチを行なえるようにいくつからの分野からの提案も行いました。様々な視点を持つことで利用者さんの楽しみや伝えたいことを見つければと思います。

☆方法としては

ワークシートを使い、援助者（支援員、家族、ワーカーetc）とグループワークを行い利用者のエンパワメントを図りたいとおもいます。

☆対象者

基本的に「重度者、自己決定が難しい人、声に出せない人、意思表示が難しい方」を中心として作られています。

考え方

このツールの考え方はあくまでもひとつの見方です。利用者さんを考えるヒントとなるものです。日常の行動や行為の中でそれは「なにか意味をもっているかも知れない」とか日頃の業務で「当たり前となっている支援や考え方をもう一度見つめなおし、今までになかったアプローチで取り組み、広がりのある支援につなげていかなければと思います。ただし、グループワークを行なうのは援助者であり、周りの人が考え出したものです。提案や環境作りは利用者ではない事を忘れず、利用者さんに合わない場合には再度フィードバックする必要があります。

ワークシートについての説明

まずははじめに

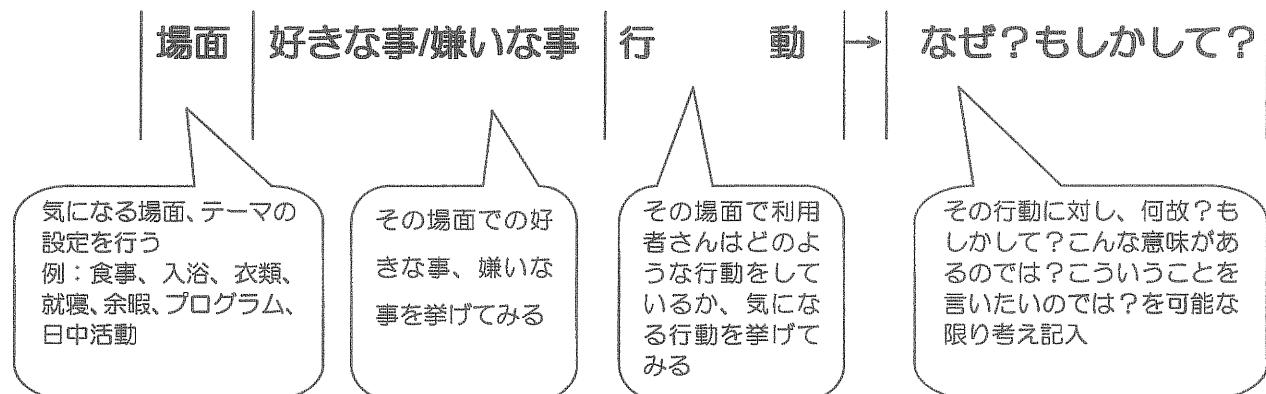
このツールは答えを見つけだすものではなく、あくまでも「なぜ、このような行動をするのか?」「このような捉え方ができないか」とかそして「楽しみや生活を方向付けできる道筋を立てられるようなもの」を作っていく、そしてより利用者さんを理解していくということを中心に考えて使っていただきたいと思います。

シートの内容

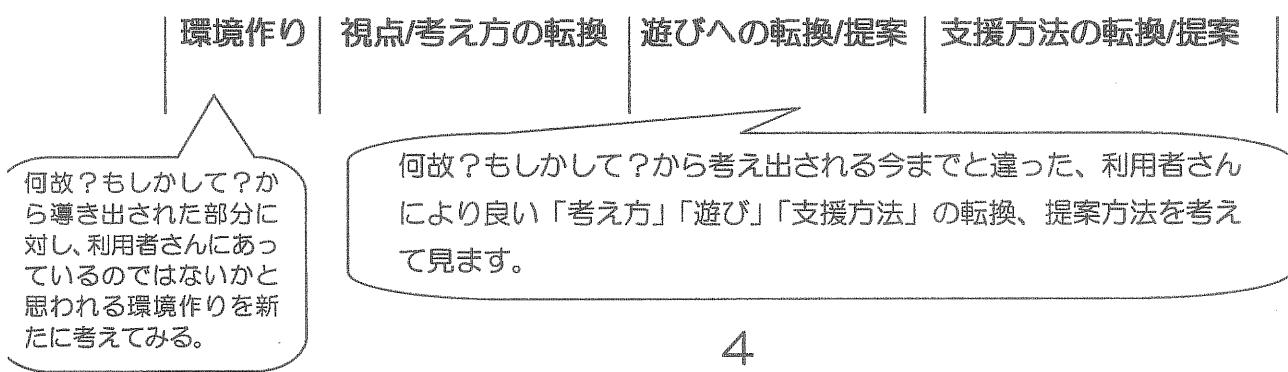
日常、生活の場面の設定を行い利用者の癖や行動、好きな事、嫌いな事をリストに落とし込みます。そこからその人の好きなことの傾向や、何故このような行動をするのか?理由を可能な限り書き出します。そこから何を汲み取れるか、考えます。

「何故?」「もしかして?」を考え、次に利用者さんにとってよい新しい環境作りを考えます。その他、視点/考え方の転換、遊びの転換/提案、支援方法の転換/提案を考えていきます。

■第1段階



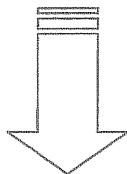
■第2段階



取り組みのながれ

準備期

- ・リーダーの設定
- ・対象利用者の決定、グループワークメンバーの決定
- ・利用者プロフィール作成・記録準備
- ・グループワークまでの期間の設定と日程の調整

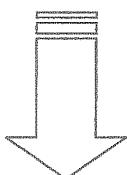


開始期

期間の設定

- ・メンバーに個別に働きかけ、ワーク内容の説明
- ・ワークシートの場面、テーマの設定
- ・期間をもっての各自モニタリング
 - 行動の記録、把握●なぜ?もしかして?の列挙
 - 環境、考え方、遊び、支援方法の提案

ワークシート1



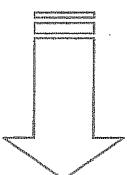
作業期

()

■グループワーク■

- ・グループメンバーの招集
- ・モニタリング結果をもってのグループワーク
- ・新たな環境作り/考え方/遊び/支援方法の転換、提案の構築、目標
- ・その実践
- ・評価期の設定

ワークシート2



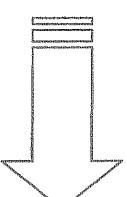
評価期

- ・グループメンバーの召集

- ・実践しての評価と課題

- ・効果が期待できない場合、その援助は終結となり、必要があれば援助方法の見直しを行う。

ワークシート3



継 続

具体的なアプローチ例（見方、考え方）

I. 行動や仕草から把握する

なにが好きか、嫌いかを捉えてみる

- ・日常動作の中からの行動を観て、その行動に疑問を持ちなぜ行っているかを考えてみる。
自分自身になぜ刺激を与えているかを推測してみます。
- ・私達も歯が痛いときにあえて刺激を与えた後、歯蓋を取りたくなる衝動にかられるように利用者も、自ら刺激を与えて一人遊びをしていると考えてみます。

実際にやって見る、体感してみる

- ・実際に同じ動きをしてどの感覚に刺激を与えているか各感覚受容器を意識しながらを理解を深めてみましょう。
- ・結果、そして提供の仕方に結びついていくことが重要です

具体例を出して説明をしていくことが理解しやすい事につながります

- ・例題として「常に爪先立ちを常にしている」利用者が居ます。なぜ？を考えましょう
- ①爪先で立ち、足に刺激を与えているのか。
- ②かかとが付く事を嫌っているのか。
- ③爪先で立つ事で少し高い視点を確保しているのか。
- ④爪先立ちで揺れているなら上下の感覚刺激を楽しんでいるのか。
- ⑤感覚とは違うが、身体的にその格好しか維持できないのか（足首が屈曲しない）

いくつかの質問を重ねてみる

- ・いくつかの質問を重ねる事で、疑問としての解決策を見出したり、似たような項目を一致させる事で提供する適切な遊びを明確にしていく。

時間・精神面・状況からみてみる

- ・落ち着いて望める時間帯を理解する（本人が意識的に目覚めているまた、落ち着いている等の時を把握する

度合いや環境的な工夫をしてみる

- ・バランスを崩されるのが嫌うが、揺れたい人にはブランコではなくロッキングチェア等。体が緊張して、床に倒れこむのが難しいが弛緩の為マッサージを受けたい人で椅子に座ることが出来る方ならば、高さのあるベッドの上で行う工夫等をする。

Ⅱ.利用者の行動から把握・発見する視点の一つとして全てにおいて何故?と思う視点を持つ

生活面

A-1 食事での場面

- ・食事的好き嫌いはありますか
- ・食感が嫌い（嫌いな物の食べ方）
- ・○○味を好む、味覚・本人の好み
- ・口元まで上手く運べるか、
- ・食事形態はどうか、危険性や外出時の注意
- ・食事で遊ぶ事はあるか（こねる、手や物でかき回す）
- ・食事の環境（騒がしいと落ち着かない、よく立ち歩く等）、外出時の注意
- ・その他の注意

-2 入浴での場面

- ・入浴は好きか
- ・介助において（洗わられて）過敏に反応するか
- ・湯船での注意点（水遊びをする、お湯に潜る、身体を浮かせるなどの様子）、水（お湯）への反応
- ・極度の温度を好む（熱めのお湯、冷たい水）

-3 衣類について

- ・洋服を気にするか（襟、袖、ハイネック等）
- ・季節に合わない衣類を着る
- ・いつも同じものを着ている
- ・いつも着用している（1日中靴下や手袋をしている）
- ・好き（嫌い）な素材や衣類がある（アクリル、シャカシャカ繊維）、

-4 就寝時について

- ・必要以上に布団にくるまるか

-5 その他（障害特性の理解）

- ・自閉的傾向⇒好きな事がこだわりへと変化してしまう。
- ・知的障害⇒支援員が楽しみから、サービス（課題としてしまい）を複雑にしてないか
- ・ダウン症⇒筋力的に継続時間と安全性への配慮

-6 周りの環境はどうですか（何故その様な経緯になったのか）

- ・他者が興奮している
- ・天気
- ・時間帯
- 環境の変化によっての行動かを觀ます。

ー7 **外出時の注意点等**

- ・手を繋ぐのが難しい、
- ・飛び出しがある、安全への配慮
- ・人ごみで興奮する
- ・他者に必要以上に接触する
- ・段差等に過敏に反応する

ー8 **その他、過敏・伝わりにくいと感じる事はありますか**

☆例として

- ・耳かき
- ・階段の上り下りが慎重
- ・他者との接触を極端に嫌うまた好む
- ・傷口を触り続ける

※その他生活場面で気付いた事を記載して下さい。

行動面（余暇を含む）

B-1

利用者の方はいつも同じような行動や動きをしていますか

☆例として

- ・ロッキングをしている（前後・左右）
- ・よく回転している
- ・常に同じ場所を触っている（特定は無いが触り続けている）
- ・手を顔の前などにかざしている、
- ・支援員に求めてくる事（身体を触らせたがる、触りたがる等）

等気付いた事を詳しく記載して下さい。

その行動で本人が一人遊びをしている可能性を観ています

それはどの様なときに出ますか

☆例として

- ・興奮している時
- ・パニックの時

自分を落ち着かせようとしているのか、本当にイラついているのかを観察。

興奮やパニック時にはどんな行動に出ますか

その行動で落ち着こうとしているのかを観ます。

どのようにすると落ち着きますか

☆例として

- ・入浴する
- ・好きな音楽を聴く
- ・一人遊びをする（どんな遊びをしますか）

好きな行動を模索します

よく行なっている行動を見てどう感じますか

- ・こだわり
- ・無表情だが楽しそう
- ・表情が豊かになる

本当に楽しんでいるのかを理解する為

その行動はどのくらい持続しますか

満足する時間を理解する

こだわって抜け出せないのかを観る

行動が終えたときに、どのような表情や様子ですか

- ・晴れやかである
- ・笑顔である
- ・こだわりが終えてホッとしている

本当に楽しんでいるのかこだわりなのか・・・

関係の良い・悪い支援員とも同じ行動をとりますか

☆具体的に

- ・感覚的に嫌いなのか

- ・関係性で変化するのか
 - ・他者を気にせずに行なってしまうのか
- 支援員との関係で変化するのか・他者を気にするのか

怪我や事故に至るまで続けてしまいますか
安全への配慮

その為の今までの解決策は、今までの余暇の過ごし方は。
支援員の対処法

行動に付隨して現状でサービスの提供がなされていますか
・それを一人で楽しめるのか、それとも支援員が付き添う事なのか
支援員の共通認識今後その行動が楽しみとして、活かされるのかを考える

現在、好きな事はありますか。また、それに対し支援員としてどう関わってますか
好きなことの模索と支援員の関わり意識

※その他生、行動面で気付いた事を記載して下さい。

※これらは、支援員が注意して行なって下さい。こだわりなのか、楽しんでいるのかを判断出来るのは、長年利用者と関わっている支援員の目が必要です。また、他者への説明の場合にはその方の全体的なイメージを持ってもらうにも活用できないでしょうか。

※出来るだけ本人の希望を取り入れる支援を行い、好きな事を見つけると共に苦手な事も理解できるようにと作成しました。その為にも下記のようなことがサービスとして提供出来ればと感じます。

- ・好きなことは一緒に使う
- ・苦手な要素は出来るだけ、慣れさせてではなく排除して楽しみに変換する
- ・好みとこだわりを支援員との関係性で見極める（表情や様子を伺いながら）
- ・常にフィードバックして検証する。

※参考資料

■脳の働き一覧

- ・前頭葉—感情を司る部分で、問題があると感情表現が難しい
- ・頭頂葉—運動と触覚（痛覚）を担う部分。損傷すると麻痺などが出る
- ・側頭葉—主に聴覚に対して働きかける
- ・後頭葉—視覚を司る部分
- ・小 脳—身体のバランスを保ったり、力のコントロールに働きかける

※利用者の支援を行なう際に、行動だけでなく既往歴や発育期の記録等も考慮する。

■プログラム例一覧

【感触】

- ・紙ちぎり（好みの紙を模索する）
- ・雑誌
- ・（新聞）紙プール
- ・シュレッダープール
- ・ビニール袋
- ・粘土
- ・スライム
- ・各種ボール（模様・大きさ・重さ等本人の好みにより模索する）
- ・布（ボアシーツ・垢すりなど感触の違うもの全般）
- ・ブラシ（バスブラシ・歯ブラシ等、触覚（硬さ）や大きさも違うもの全般）
- ・水遊び
- ・砂や泥遊び
- ・ビーズやストロー枕（砂などより個体の大きいもの）
- ・紐（太さ・長さ色等、本人の好みの模索）
- ・手叩き
- ・風船
- ・水風船
- ・その他利用者が常に持っているもの（お気に入り）も観察する

※手のみではなく、全身に対してのアプローチを支援する。素材によっては安全性も考慮してください。

【揺れる動きのプログラム】

- ・ブランコ（一人乗り・複座）
- ・ロッキングチェア
- ・シーソー
- ・ハンモック
- ・回転椅子
- ・回転盤（回転椅子より地面に近く、恐がる利用者には良い）
- ・支援員が座位、立位で身体を揺らす
- ・座っての押し引き合い
- ・スケボー

※揺れる場合には、車酔いなどの様に危険性

があるので利用者の様子の注意する。

【見るプログラム】

- ・色彩の良い本を見る
- ・回転している物を見る（ルーレット等）
- ・直線的に流れる物を見る（車・電車の車内）
- ・左右に揺れる物を見る（振り子・手をヒラヒラ）
- ・上下に流れる物を見る（エレベーター等）

※視覚からの情報は、刺激が強いので発作や嘔吐に注意して行う。

②支援者の意識を変えてみる

意識転換

①「コミュニケーション」

ここに言葉を発することができない彼がいる。伝えたい思いを伝えられない彼がいる。そして、こちらに、その方の気持ちを分かろうとしながらも、それがかなわない自分がいる。お互いが、お互いに伝えたい思いがかなわず、そこで立ち往生している彼と自分。何らかの手段で思いを伝えようとする彼。それを分かりえない自分。障害者であるのは彼だけなのか、彼の思いを受け止められない自分も障害者ではないのか？お互いにコミュニケーション障害者？

②「行動障害」

ここにイライラすると窓ガラスを割ってしまう彼がいる。それは例えば良くない行動であると、その都度説教を繰り返す自分がいる。何年も窓ガラス割りという行動を変えられない彼。そして気がつけばここに同じように説教という行動を変えていない自分。お互いに自分から行動を変容させることができないもの同士。彼が行動障害者ならおそらく自分も行動障害者？

③「支えあい」

ある日、彼の本当の気持ちがわかる。でもその願いかほとんどかないそうもない時、絶望と無気力感に襲われる彼。そして、ここに支援者として何もできない自分。だからそこにも絶望と無気力感。そして自責感。彷徨う魂、寄り添う心とこころ。お互いに、思いやり、支え合う。いったいどちらが障害者？

④「あれなに」

我々支援員は今までの経験から利用者の行動を判断していませんか。日常の行動や行為の中になにか意味を持っているはず。この仕事を始めた時のことを思い出してみてください

「あの人はなぜあんなことしているのだろう」と思った事がたくさんあったのではないかでしょうか。極端な例ですが、頭を叩くという自傷している方がいます。誰だって自分の頭を叩くような痛そうな事は嫌いなはずです。しかし、もしかしたら自傷行為に見られる行為は頭を打ち付けた時の衝撃か和太鼓やバスドラム、打ち上げ花火のように体に響くのが気持ちいいのかもしれません。もしかしたら怪我をしてかまってもらったり治療をされたいのかもしれません、小さいころ大きめに温布や包帯を巻いてかっこいいとおもったことがありますか。

今まででは「注意」や「行動制限」をするだけの支援が違った視点で、「太鼓を使った音」を提供してみたり、爪切りやネイルケアへの時間を作つてみたりできるはず。今までの先入観を排除して考えればもう一步利用者さんに近づくはず。

最後に・・・

今まで利用者皆さんのかつとした仕草に対して疑問を持つことが少なく、「なぜ?」と考えることがあまりありませんでした。その行動に対して、ただ「やっている」としか思えず、それを支援として結び付けるまでには至りませんでした。

今回のツールを作成し、援助者として利用者さんへの捉え方に色々な視点での疑問を持つことが出来ました。モニタリングを行うにつれ、新しい発見も出来たのではないかと感じます。

今後は、このシートを使いより良い支援につなげていければと感じます。

A1グループ一回

